

体験授業 資料 (鴻巣高校 商業科)

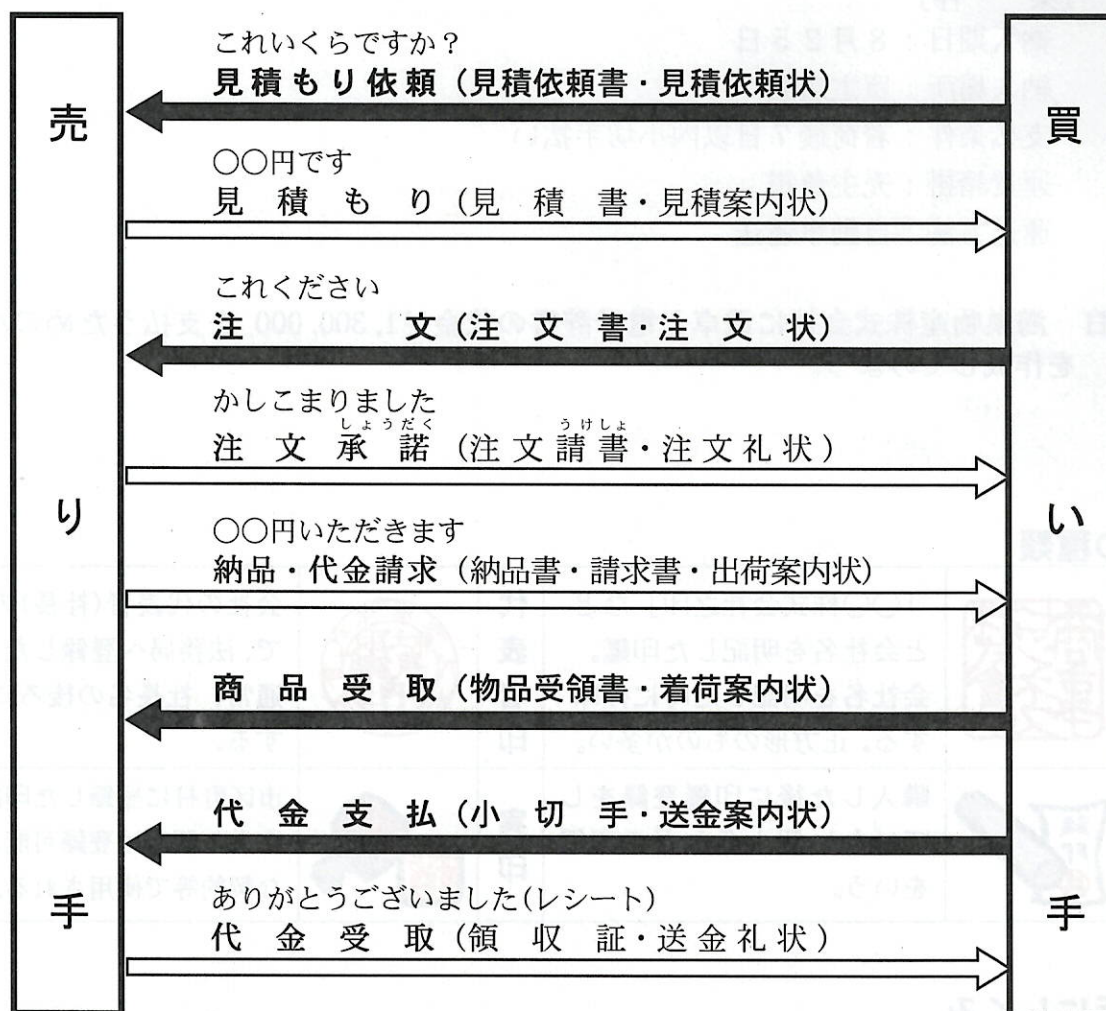


総合実践 (商品売買取引)

▶ 売買取引の流れ

企業が、商品売買などの取引をする場合、取引数や金額が多いこと、取引条件等に関するトラブルが生じないように、証拠となる書類（文書）を作成して取引を進めます。これを文書主義の原則といいます。

企業における商品売買の流れも皆さんがお店に買い物に行くときと同じです。



企業では、様々な書類をパソコンを利用して作成していますので、本日もパソコンを使用しての取引文書を作成を体験します。

本日の体験授業では、上記の流れのうち買い手が作成する「商品の注文」と「代金の支払い」に関する書類作成を体験します。

▶ 取引の準備

あなたは商事会社の社長です。

総合実践システムの「会社基本データ」の社長名にあなたの氏名を入力しましょう。

(ローマ字入力)

▶ 取引内容

8月20日 鴻巣物産株式会社に電卓と電子辞書を次のように注文するための注文書(No.1)を作成してみよう。

〔注文商品〕

電卓 100台 単価¥4,000

電子辞書 50台 単価¥18,000

〔条件〕

納入期日：8月25日

納入場所：買主店頭




支払条件：着荷後7日以内小切手払い

運賃諸掛：売主負担

運送方法：自動車運送

8月31日 鴻巣物産株式会社に電卓と電子辞書の代金¥1,300,000を支払うための小切手を作成してみよう。

印鑑の種類

社印		「〇〇株式会社之印」などと会社名を明記した印鑑。会社名を明記した時に押印する。正方形のことが多い。	代表者印		会社の代表者(社長)の印鑑で、法務局へ登録したもの。通常、社長名の後ろに押印する。
認印		購入した後に印鑑登録をしていない個人名などの印鑑をいう。	実印		市区町村に登録した印鑑。1人1個だけ登録可能。重要な契約等で使用される。

小切手にしくみ

商品代金の支払いのため、高額な現金を持ち歩くのは危険性が高く、受け取る側も現金を数えるなどの手間がかかります。そこで使用されるのが小切手です。

小切手は、銀行に当座預金としてお金を預けることによって使用可能になる。そして、手にした小切手に必要事項を記入して渡す(振り出す)と、受け取った相手はその小切手を銀行に持っていき、現金にかえます。そのさいに支払われるお金は小切手を振り出した人の当座預金からとなる。

小切手の金額は手書きされる場合もあるが、不正(書きかえ)を防ぐために「チェックライター」という専用の機械を使用することが多い。